

愛知県英語教育改善プラン

実施内容

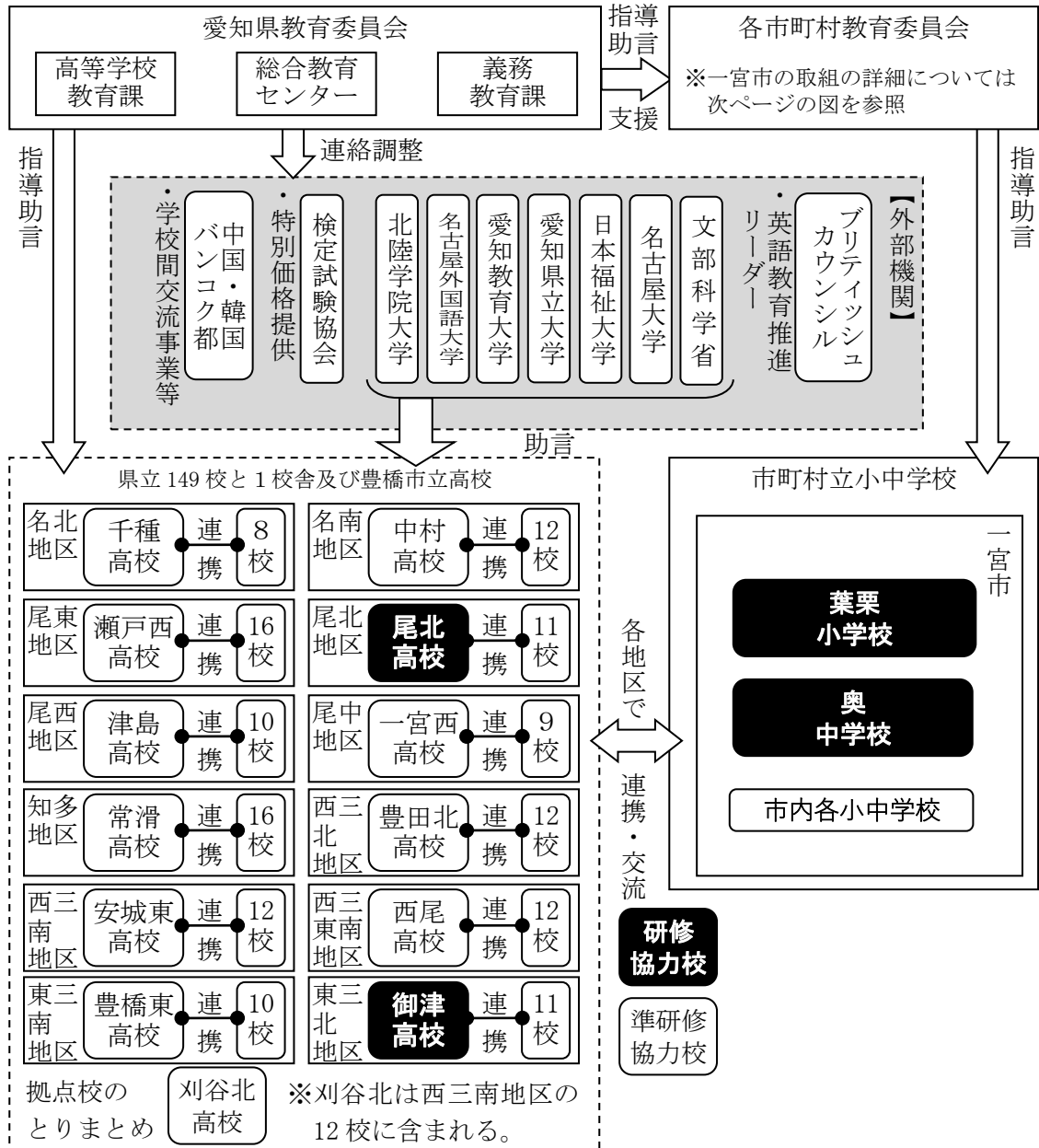
(1) 英語教育改善プラン推進体制の概要

◆ 県立高校

ア 外部機関との連携

地域の英語教育に関する学部、学科等をもつ大学等と連携しながら本事業を進める。また、本県の英語教育に関して、継続的な協力を得られている大学との連携をさらに深め、外部有識者（大学教授等）を運営指導委員とし、研修協力校における英語指導力の向上のための継続的な指導を行うとともに、研修協力校等で行われる公開授業や小中高連携連絡協議会に参加し、助言者としての役割を担う。

イ 英語教育改善プラン推進体制の組織図



研修協力校を4校設置（高校2，中学校1，小学校1）し、校内において英語指導力向上講座を実施し、当該校の英語科教員の英語力と指導力の向上に資する。

また、県内を12地区に分け、国際教養科を有し先進的な英語教育を推進する、本事業の研修協力校（2校）と準研修協力校（11校）を各地区における英語教育推進拠点校（以下「拠点校」という。）に指定し、各地区における研修会の企画運営や小中学校との連携を委ねる。

ウ 研修

英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指し、県内12地区において、拠点校を中心に、研究授業や研究協議、ワークショップ、講演会などを実施する。地区内の英語科教員全体に研究成果を還元することで、県立高校149校全体の英語力の向上を目指す。

また、愛知県教育委員会が実施する「新教育課程愛知県説明会」「イングリッシュ・フォーラム」や、研修協力校が主管する「授業力向上研修」を通じて、本県の重点目標である「生徒の英語による言語活動時間の割合の向上」や「パフォーマンステストの実施状況の改善」を図る。

さらに、研修協力校でのALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動やパフォーマンステストの具体的な事例を示し、本県の生徒の英語力の更なる向上を目指す。

なお、状況に応じて、Web会議ツール等を活用し、オンライン研修会等の開催の手立てを講じる。

エ 小中高の連携

県内12地区において、地区別授業研修を年間2回以上実施し、拠点校と連携する中学校との相互の授業参観と研究協議を行う。地区内の他の高等学校や近隣の小中学校の教員にも参加を促す。また、英語教育推進リーダー中央研修に参加した教員（以下「英語教育推進リーダー」という。）を研究授業や研究協議等に派遣し、授業者及び参加者に指導・助言をし、授業改善や教員の指導力向上に資する。

なお、状況に応じて、Web会議ツール等を活用し、オンライン研修会等の開催の手立てを講じる。

◆特定地域の教育委員会に再委託して行う、地域内の小中学校の英語指導力向上に係る事業

ア 一宮市教育委員会が主体となり、研修の企画・運営、外部専門機関等の連絡調整を進める。

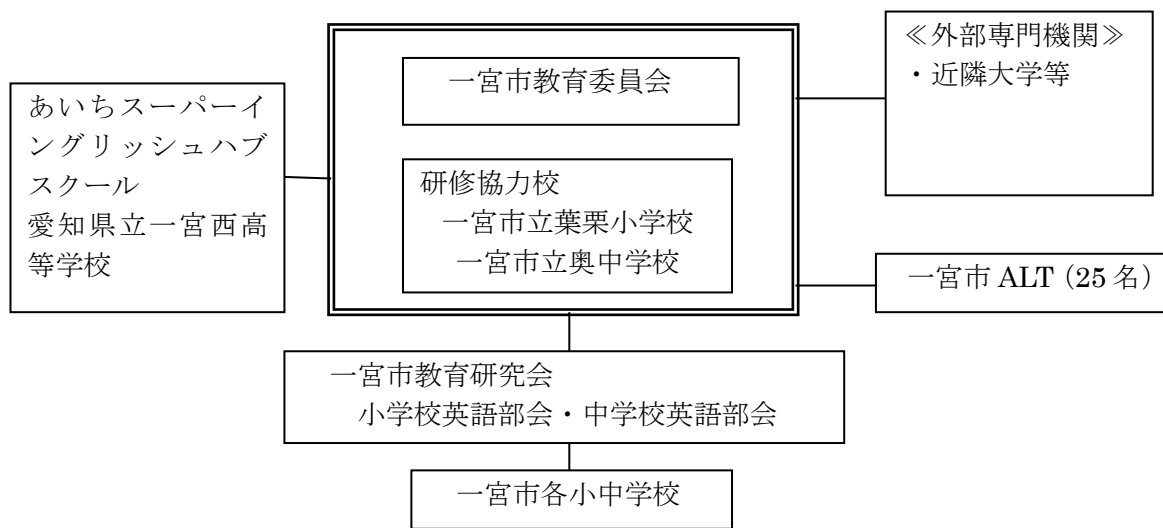
- ・ 児童生徒にとって必要な英語力や小中学校の連携などについて探るため、外部専門機関等との連携を図り、一宮市内の小中学校の指針となるように検討をする。

イ 一宮市内1中学校と1小学校を研修協力校とし、市内小中学校の外国語活動・外国語科・英語担当教員の指導力の向上を目指す。

- ・ 一宮市教育研究会、学習指導法・評価研究委員会（小学校英語・中学校英語部会）と連携を図り、本研修事業を推進する。
- ・ 研修協力校の実践研究を通して、これからの外国語活動・外国語科の在り方を追究する。
- ・ 研修協力校2校の成果を一宮市立市内の小中学校に公表・普及する。

ウ 小中高の連携を進めるために、あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業を推進する一宮西高等学校との連携を密にし、各小中学校の教員の情報交換や交流を図る。

エ 一宮市が本事業を通して行った研修等の成果や課題については、愛知県教育委員会義務教育課が行う学校教育担当指導主事会等で報告をし、他の市町村への普及を図る。



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標

◆県立高校

ア 英語教育の現状と課題及びその要因

愛知県教育委員会では、平成25年度から、あいち国際戦略プランにおける人材育成を支える、あいちグローバル人材育成事業を立ち上げ、児童・生徒の英語力の強化及び国際交流等を通じた学ぶ意欲の向上に努めてきた。その結果、高校3年生時点で、求められる英語力を有する生徒の割合は、令和元年度調査で36.7%であり、本県における過年度比較では、平成25年度の21.5%から約15ポイント上昇した。また、令和2年度には本県独自に調査を実施し、その結果、高校3年生時点で、求められる英語力を有する生徒の割合は、令和元年度調査より4.9ポイント上昇し、41.6%であった。特に、普通科においては、前年度より8.9ポイント上昇し、56.4%の生徒が求められる英語力を有している。

各校において、適切な学習到達目標を設定したり、四技能をバランスよく育成するためのパフォーマンステストを導入したりするなど、一人一人の教員が授業改善を推進してきた成果であると考えられる。また、本年度、全県立高校の生徒を対象に、民間のオンライン学習支援サービスを導入したことで、各生徒が家庭等で質の高い学習コンテンツを利用できるようになったことと、教員が各生徒の学習の進捗状況を把握できるようになったこと、さらにそれらを教員が授業改善に生かしたことが生徒の英語力の伸長の要因であると考えられる。

しかしながら、高校3年生時点で、求められる英語力を有する生徒の割合は国の目標値である50%には達していない。これは、授業における生徒の英語による言語活動とパフォーマンステストの実施状況にあると考える。授業における生徒の英語による言語活動の実施状況がその他の専門学科及び総合学科全体で29.6%であったり、パフォーマンステストの実施状況が普通科全体で29.2%、その他の専門学科及び総合学科全体で29.9%であったりと、学校間や学科間で取組に差が見られるなどの課題があり、改善の余地が残されている。そこで、教育委員会は、各学校が地域や学校の実情や生徒の実態を踏まえながら、生徒の英語力の更なる向上を目指すことができるよう、今年度の重点目標及び目標指標を次のように設定する。

イ 重点目標及び達成に向けた研修

「目標2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合の向上」及び「目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善」を本県の県立高校重点目標とする。また、その目標達成に向け、次の研修を実施する。

- ・新教育課程愛知県説明会（各校英語科の責任者1名を対象とする）
- ・授業力向上研修（各校英語科の責任者1名を対象とする）
- ・地区別授業研修（各校英語科の教員1名を対象とする）
- ・イングリッシュ・フォーラム（各校英語科の教員1名及び生徒を対象とする）
- ・拠点校連絡協議会（各拠点校等の英語科の責任者1名を対象とする）

ウ 目標指標及び達成に向けた具体的な手立て

○目標1 学習到達目標の整備状況

(1) 目標指標

平成27年度までに全校で設定した学習到達目標の公表及び達成状況の把握を令和3年度までにいずれも80%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<拠点校連絡協議会>

- ・外部機関の有識者等が拠点校連絡協議会で先進的な取組事例等を紹介し、学習到達目標の改定、授業改善及び評価の工夫改善を推進する。

<地区別授業研修>

- ・拠点校は、主管する地区別授業研修で地区内の高校等に、拠点校連絡協議会での先進的な取組事例等を伝達する。

○目標2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合の向上：**令和3年度重点目標**

(1) 目標指標

授業における生徒の英語による言語活動の割合が50%以上である教員の割合を令和3年度までに50%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<新教育課程愛知県説明会>

- ・ 文部科学省の全国主事会に参加した指導主事等が学習指導要領の趣旨、パフォーマンステストの実施とCAN-DOリスト形式での学習到達目標の関連性及び指導と評価の一体化について、各校英語科の責任者に説明し、各学校における授業改善の更なる推進を図る。

<授業力向上研修>

- ・ 外部機関から有識者を招へいし、年間学習指導計画や学習指導案における、具体的な言語活動やパフォーマンステストを各校の英語科教員に紹介することで、各学校における授業改善の更なる推進を図る。
- ・ 拠点校でのALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動の具体的な事例や成果等を各校の英語科教員に示し、本県の生徒の英語力の更なる向上を目指す。

<地区別授業研修>

- ・ 拠点校は、地区内の高校等に、拠点校連絡協議会での先進的な取組事例や成果等を伝達する。
- ・ 拠点校が、生徒の英語による言語活動を中心とした授業についてのアイデアやALTやICTを活用したパフォーマンステスト実施についてのノウハウや成果等を提供し、各学校における授業改善の更なる推進を図る。
- ・ 当該地区に在籍する英語教育推進リーダーが研究授業を参観して意見を述べる場を設定することにより、各学校における授業改善の一助とする。
- ・ 拠点校は、県外の先進校等から講師を招聘し、研究授業への指導・助言を得ることにより、各学校における授業改善の一助とする。

<イングリッシュ・フォーラム>

- ・ 拠点校の代表校2校が、生徒の英語による言語活動を中心とした授業についてのアイデアやALTやICTを活用したパフォーマンステスト実施についてのノウハウや成果等を提供し、各学校における授業改善の更なる推進を図る。
- ・ 生徒の授業における英語による言語活動の成果発表の機会とする。

<イングリッシュキャンプ in あいち>

- ・ 各校の英語担当教員が視察をすることで、本県の児童生徒の現在の学びや課題を共有し、ALTによる効果的な言語活動を学ぶ機会とする。

<その他>

- ・ 総合教育センターや義務教育課等と連携し、本重点目標について、研修や学校訪問等の機会を通じて、学校長及び英語教員に周知するとともに、個別の具体的な改善方策等を伝える。
- ・ 学校訪問や地区別授業研修での授業参観において、教育委員会や総合教育センターの指導主事等が、授業における生徒の英語による言語活動の割合を実際に計測した上で、言語活動の改善点等を指摘したり、より充実した言語活動となるような指導・助言をしたりすることで、生徒の英語による言語活動時間の割合の向上を図る。

○目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善：**令和3年度重点目標**

(1) 目標指標

各学校におけるパフォーマンステストとして、スピーキングテスト及びライティングテストを令和3年度までに各科目において年間3回以上実施する。また、令和4年度以降は、各科目においてスピーキングテスト及びライティングテストの年間5回以上の実施を目標指標とすることを各学校に周知する。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<新教育課程愛知県説明会>

- ・ 文部科学省の全国主事会に参加した指導主事等が学習指導要領の趣旨、パフォーマンステストの実施と CAN-DO リスト形式での学習到達目標の関連性及び指導と評価の一体化について、各校英語科の責任者に説明し、各学校におけるパフォーマンステストの更なる充実を図る。

<授業力向上研修>

- ・ 外部機関から講師を招へいし、年間学習指導計画や学習指導案における、具体的な言語活動やパフォーマンステストを各校の英語科教員に紹介することで、各学校におけるパフォーマンステストの更なる充実を図る。
- ・ 拠点校でのALTやICTを活用したパフォーマンステストの具体的な事例や成果等を各校の英語科教員に示し、本県の生徒の英語力の更なる向上を目指す。

<地区別授業研修>

- ・ 拠点校は、地区内の高校等に、拠点校連絡協議会での先進的な取組事例を伝達する。
- ・ 拠点校が、生徒の英語による言語活動を中心とした授業についてのアイデアやALTやICTを活用したパフォーマンステスト実施についてのノウハウや成果等を提供し、各学校におけるパフォーマンステストの更なる充実を図る。

<イングリッシュ・フォーラム>

- ・ 拠点校の代表校2校が、生徒の英語による言語活動を中心とした授業についてのアイデアやALTやICTを活用したパフォーマンステスト実施についてのノウハウや成果等を提供し、パフォーマンステストの更なる充実を図る。

<イングリッシュキャンプ in あいち>

- ・ 各校の英語担当教員が視察をすることで、本県の児童生徒の現在の学びや課題を共有し、ALTによる効果的なパフォーマンステストを学ぶ機会とする。

<その他>

- ・ 総合教育センターや義務教育課等と連携し、本重点目標について、研修や学校訪問等の機会を通じて、学校長及び英語教員に周知するとともに、個別の具体的な改善方策等を伝える。
- ・ 「平成30年度教育課程課題研究指導事例集」を活用し、各学校におけるパフォーマンステストの更なる充実を図る。
- ・ 本県の英語教育推進において、中核的な役割を務める国際教養科を有する拠点校2校において、様々な分野の外部有識者を招聘し、パフォーマンス評価研修会を実施する。当該校において適切なパフォーマンス評価ができるよう授業参観を通して、外部有識者がカリキュラムマネジメントの観点から検証するとともに、改善に向けた指導・助言を当該校の英語教員に与える。
- ・ パフォーマンス評価研修会を実施しない拠点校11校においては、県内の大学教授等を招聘し、英語指導力向上研修を年間2回実施する。授業参観等を通して、大学教授等がALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動やパフォーマンステストの実施についての指導・助言を当該校の英語教員に与える。

○目標4 英語担当教員の英語使用状況

(1) 目標指標

授業における発話の半分以上を英語で行っている教員の割合を、令和3年度までに50%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<地区別授業研修>

- ・ 授業を参観させたり英語で行う授業づくりを体験させたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業の更なる推進を図る。
- ・ 当該地区に在籍する英語教育推進リーダーが研究授業を参観して意見を述べる場を設定することにより、各学校における授業改善の一助とする。

<その他>

- ・ 本県では、学習指導要領改訂や高大接続改革の趣旨を踏まえた探究的な学習を推進するために、県立高校12校の主管校において、「主体的・対話的で深い学びの推進」をテーマとした研究開発を行う「あいちラーニング推進事業」を実施している。主管校の研究報告書等を通じてその成果を広く普及・還元し、主体的・対話的で深い学びの推進を英語による発話で実践する上での一助とする。

○目標5 求められる英語力を有する教師の割合の向上

(1) 目標指標

英検準1級程度等の英語力を有する教員の割合を、令和3年度までに70%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 英語教育指導者研修の参加者が校内研修等を通じて研修の成果を普及することによって、英語科教員の英語力の段階的な向上を目指す。
- ・ 各種研修会等を通じて「特別価格による外部検定受験制度」の更なる活用を促し、受験を推奨する。
- ・ 教員採用試験に向けての大学説明会や大学担当者説明会において、英検準1級などの英語力を有する者を求めていることを伝えていく。

○目標6 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

(1) 目標指標

英検準2級程度以上相当の英語力を有する生徒の割合を令和3年度までに50%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<地区別授業研修>

- ・ 生徒の言語活動を中心とした授業の更なる推進を図り、生徒の英語運用力の向上を目指す。

<イングリッシュ・フォーラム>

- ・ 生徒の授業における英語による言語活動の成果発表の機会とする。

<その他>

- ・ 外部検定試験の受験を推進することで実際の生徒の英語力を把握・検証し、その後の授業改善の客観性・正確性を高める。
- ・ 高等学校教育課程課題研究班で適切な評価方法の研究を行う。
- ・ イングリッシュキャンプやイングリッシュ1Day ツアーの実施等を通して、国内における異文化体験を推進する。
- ・ 海外からの留学生・派遣団の受け入れなど、海外交流を推進する。
- ・ 本県知事部局国際課と連携し、本県の友好都市等であるタイ・バンコク都、中国・広東省、韓国・京畿道の高校生等とのオンラインを含めた学校間交流等を通して、国際的な視野のかん養を図る。

◆小中学校

ア 英語教育の現状と課題及びその要因

愛知県教育委員会では、平成25年度から、あいち国際戦略プランにおける人材育成を支える、あいちグローバル人材育成事業を立ち上げ、小中高連携を進めながら児童・生徒の英語力の強化及び国際交流等を通じた学ぶ意欲の向上に努めてきた。令和元年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、愛知県の中学生は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のいずれにおいても全国平均を上回り、基礎的な英語力の定着については成果がみられたが、課題は多くある。令和元年度の英語教育実施状況調査では、CAN-DOリストの形式による学習到達目標の設定については、愛知県版CAN-DOリストを活用して100%を達成したが、公表については6.9%、達成状況の把握は32.2%といずれも低い。設定したCAN-DOリストの活用が十分ではないことが考えられる。パフォーマンステストの実施状況のうち、スピーキングテストについては3.6回と徐々に実施回数が増えてきているが、ライティングテストについては1.9回となかなか増えて

いない現状がある。このことについて全国学力・学習調査の結果では、記述式問題の正答率については全国を下回っており、自分の意見を書いたり理由を述べたりすることに課題があることがわかっている。求められる英語力を有する生徒の割合は31.6%と低く、分析すると、英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒の割合が低いことと、求められる英語力を有すると思われる生徒数の割合が低いことがわかった。後者については、学習到達目標の達成状況の把握が不十分であることも課題であると考えられる。

これらの課題を踏まえ、生徒の英語力の更なる向上を目指すことができるよう、今年度の重点目標及び目標指標を次のように設定する。

イ 目標指標及び達成に向けた具体的な手立て

○目標1 学習到達目標の整備状況

(1) 目標指標

令和3年度までに公表、達成状況の把握ともに80%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<愛知県小中学校教育課程研究集会>

<学習指導法・評価研究委員会による英語授業力向上のための研修>

- ・ 愛知県版CAN-DOリストを見直し、その公表方法の例や達成状況の把握の仕方について示したものと合わせて、県内の小・中学校へ周知を図る。
- ・ 各種研修等を通じて、上記の資料を活用した年間学習指導計画や学習指導案における、CAN-DOリスト形式での学習到達目標の達成状況の把握を推進する。

<中学校英語科講座>

- ・ 令和3年度採択された教科書の学習内容をもとにパフォーマンステストの事例集を見直し、パフォーマンステストを含めた学習評価によって達成状況を把握すること示す。

○目標2 生徒の授業において英語による言語活動時間の割合の向上

(1) 目標指標

生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上である教員の割合を令和3年度までに90%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果をもとに愛知県総合教育センターが作成した授業アドバイスシートを活用し、授業における継続した言語活動を通じた指導を促す。
- ・ 聞いたり、読んだりしたことに基づき、話したり書いたりする技能統合型の言語活動を導入する。
- ・ 総合教育センターや教育事務所と連携し、研修や学校訪問等の機会を通じて周知するとともに、個別の具体的な改善方策等を伝える。

<研修協力校における研究授業・研究協議(小学校・中学校)>

- ・ 英語担当教員による研修会及び授業研究会において、生徒の言語活動に視点をおいた授業内容及び構成の工夫を促し、市全体の授業の改善を図る。

<高等学校研究授業参観・研究協議(中高連携において)>

- ・ あいちスーパーイングリッシュハブスクールと連携して英語授業力向上研修などを通して、各学校の英語担当教員の情報交換や交流を図る。

○目標3 パフォーマンステストの実施状況の改善

(1) 目標指標

学校における年間のパフォーマンステストの実施回数を、令和3年度まで計8回以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 児童生徒が英語活動・英語科で養った表現力やスピーチ力を活かして発表する機会を設け、児童生徒がともに学び合う場を設定する。

<愛知県小中学校教育課程研究集会>

<学習指導法・評価研究委員会による英語授業力向上のための研修>

- ・ CAN-DO リストの形式による学習到達目標の設定を推進する。
- ・ 令和3年度採択された教科書の学習内容をもとにパフォーマンステストの事例集を見直し、パフォーマンステストの活用モデルを提示する。

<外部機関と連携した英語指導力向上のための研修>

- ・ 授業研究会・研究協議会を通して、スピーキング・ライティングテストの方法や評価について、工夫・改善を検討し、各校の授業の質的向上に生かす。

○目標4 英語担当教員の授業における英語使用状況

(1) 目標指標

授業における発話の50%以上を英語で行う教員の割合を、令和3年度までに80%にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 総合教育センターや教育事務所と連携し、研修や学校訪問等の機会を通じて周知するとともに、個別の具体的な改善方策等を伝える。

<研修協力校における研究授業・研究協議(小学校・中学校)>

<外部機関と連携した英語指導力向上のための研修>

- ・ 各種研修を通して授業を参観したり、英語を行う授業づくりを体験させたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業のさらなる推進を図る。
- ・ 授業研究会・研究協議会では、外部専門機関からの講師による指導及び交流の場を作り、教員の授業力の向上を段階的に目指す。

○目標5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

(1) 目標指標

CEFR B2 レベル以上の英語力を有する中学校教員の割合を、令和3年度までに、45%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

<研修協力校における研究授業・研究協議(小学校・中学校)>

- ・ 研修協力校の英語担当教員が授業研究会等で研修の成果を普及することにより、英語科教員の英語力の向上を目指す。

<外部機関と連携した英語指導力向上のための研修>

<英語教育推進リーダーによる英語力指導力向上研修>

- ・ 夏季休業中の研修では、小中学校の教員を中心に、英語によるコミュニケーション力の向上を目指す。

<外部機関と連携した英語指導力向上のための研修>

- ・ 研修会では、外部専門機関等と連携して研修を行い、教員が実際に英語を聞いたり話したりする機会を設ける。

<英語指導力向上検定>

- ・ 各種研修会等を通じて「特別価格による外部検定受験制度」の更なる活用を促し、受験を推奨する。

○目標6 求められる英語力を有する生徒の割合の向上

(1) 目標指標

CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、令和3年度までに45%以上にする。

(2) 目標を達成するための具体的な手立て

- ・ 学習指導法・評価研究委員会(小学校英語・中学校英語)では、児童生徒の言語活動を中心とした授業の深化拡充を目指し、生徒の英語力の向上を実現できる授業力の向上を図る。

- ・ 児童生徒の外部検定試験等の受験を啓発・推進する。

- ・ 検定試験の結果を踏まえ、児童生徒の英語力の実態を検証し、授業改善に生かす。

- ・ イングリッシュキャンプやイングリッシュ1Day ツアーの実施等を通して、国内における異文化体験を推進する。

＜外部機関と連携した英語指導力向上のための研修＞

- ・ 各種研修等を通じて、年間学習指導計画や学習指導案における、CAN-DO リスト形式での学習到達目標の達成状況の把握を推進する。

◆小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合について

1 年次目標の設定について

※目標管理書を参照

2 目標を達成するための具体的な手立てについて

- (1) 令和3年度から変更する教員採用選考試験を実施した後、受験者の状況・加点項目等について分析・検討し、英語準1級などの英語力を有する小学校新規採用者を増加させるための手立て・方策について検討する。
- (2) 令和3年度から変更する教員採用選考試験を実施した後、受験者の状況・加点項目等について分析・検討し、中学校英語免許を保有する小学校新規採用者を増加させる手立て・方策について検討する。
- (3) 教員採用選考試験に向けた大学説明会や大学担当者説明会において、英語準1級などの英語力を有する者を求めていることを伝えていく。

(3) 研修の体系と内容の具体

◆県立高校

本県の県立高校重点目標達成に向け、次の研修を実施する。なお、状況に応じて、Web会議ツール等を活用し、オンライン研修会等の開催の手立てを講じる。

1 新教育課程愛知県説明会

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科の責任者（教科主任等）1名

(2) 研修目的・内容

各学校における授業改善やパフォーマンステストの更なる推進を目的とし、文部科学省の全国主事会に参加した指導主事等が学習指導要領や評価について、各校英語科の責任者に説明する。

(3) 受講予定者数

149名

(4) 研修の評価方法

英語教育実施状況調査及び研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

2 授業力向上研修

(1) 研修対象者

各県立高等学校英語科の責任者（教科主任等）1名

(2) 研修目的・内容

英語科教員の授業力の向上を目的として、外部機関の有識者を講師として招へいし、学習指導要領の趣旨を踏まえた講演会等を年に2回実施する。また、研修協力校が企画・運営に携わる。

外部機関から有識者を招へいし、年間学習指導計画や学習指導案における、具体的な言語活動やパフォーマンステストを紹介することで、各学校における授業改善及びパフォーマンステストの更なる推進を図る。

研修協力校でのALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動及びパフォーマンステストの具体的な事例を示し、本県の生徒の英語力の更なる向上を目指す。

(3) 受講予定者数

149名

- (4) 研修の評価方法
英語教育実施状況調査及び研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。
- 3 地区別授業研修
- (1) 研修対象者
各県立高等学校英語科教員1名及び小、中学校の英語担当教員
- (2) 研修目的・内容
- ・ 各学校における授業改善の一助とするために、当該地区に在籍する英語教育推進リーダーが研究授業を参観して意見を述べる場を設定する。
 - ・ 学習到達目標の改定、授業改善及び評価の工夫改善を推進するために、拠点校は、主管する地区別授業研修で地区内の高校等に、拠点校連絡協議会での先進的な取組事例等を伝達する。
 - ・ 各学校における授業改善の更なる推進を図るために、外部機関から有識者を招へいし、年間学習指導計画や学習指導案における、具体的な言語活動やALTやICTを活用したパフォーマンステストを紹介する。
 - ・ 各学校におけるパフォーマンステストの更なる充実を図るために、拠点校が、生徒の英語による言語活動を中心とした授業についてのアイデアやALTやICTを活用したパフォーマンステスト実施についてのノウハウを提供する。
 - ・ 授業を参観させたり英語で行う授業づくりを体験させたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業の更なる推進を図る。
 - ・ 生徒の言語活動を中心とした授業の更なる推進を図り、生徒の英語運用力の向上を目指す。
- (3) 受講予定者数
149名
- (4) 研修の評価方法
英語教育実施状況調査及び研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。
- 4 イングリッシュ・フォーラム
- (1) 研修対象者
各県立高等学校英語科教員1名
- (2) 研修目的・内容
拠点校の1年間の取組等の成果を、県内の小・中学校及び県内全ての県立高等学校に普及・還元することを目的として、全体発表会と分科会を実施する。12地区それぞれの代表生徒1名が発表テーマをSDGsのゴールと関連付けて英語によるポスターセッション(分科会)を行い、拠点校の英語科教員及び該当地区の英語教育推進リーダーが指導・助言にあたる。また、当日参加できない生徒は、SDGsのゴールに発表テーマを関連付け、同世代に対する提言を5分程度の発表動画にまとめ、提出することもできる。
- (3) 受講予定者数
180名
- (4) 研修の評価方法
英語教育実施状況調査及び研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。
- 5 拠点校連絡協議会
- (1) 研修対象者
拠点校及びあいちグローバルハイスクール指定校の英語科の責任者1名
- (2) 研修目的・内容
外部機関の有識者等が拠点校連絡協議会で先進的な取組事例等を紹介し、学習到達目標の改定、授業改善及び評価の工夫改善を推進する。
拠点校等でのALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動やパフォーマンステストの具体的な事例を示し、本県の生徒の英語力の更なる向上を目指す。
- (3) 受講予定者数

30名

6 英語指導力向上講座

(1) 研修対象者

研修協力校英語科教員

(2) 研修目的・内容

研修協力校の英語科教員の英語力や指導力の向上を目的として、研修協力校それぞれにおいて自校の教員向けの講座を年間2回程度実施する。

外部機関の有識者等から、ALTやICTを活用した生徒の英語による言語活動やパフォーマンステストの実施に向けた指導・助言を受ける。

(3) 受講予定者数

約20名

(4) 研修の評価方法

拠点校連絡協議会の際に研修成果を報告し、協議する。

(5) 外部機関及び研修協力校との関わり

- ・ 連携する名古屋大学、愛知教育大学、愛知県立大学、日本福祉大学、名古屋外国語大学、北陸学院大学等から講師を招へいする。(年間2回程度)

◆特定地域の教育委員会に再委託して行う、地域内の小中学校の英語指導力向上に係る研修等

1 研修名 外部機関と連携した英語指導力向上のための研修

(1) 研修対象者

市内小学校教員・中学校英語担当者

(2) 研修目的・内容

① 小学校の各学級担任が英語を使って授業を行うことの楽しさや充実感を感じ、自信をもって外国語活動・外国語の指導を行うことができるように英語教育に必要な知識・技能や指導法を学ぶ。(夏季)

② 中学校英語担当教員が、新学習指導要領で必要とされる英語の力を生徒に身に付けさせるための指導法とそれにかかる評価の在り方について学ぶ。(冬季)

③ 教員向けに英語の音声面やスモールトークで使う簡単な表現等の英語運用能力向上を図る。(計4回：6月、10月、11月、12月)

(3) 受講予定者数 ①夏季 50名 ②冬季 40名 ③50名(のべ)

(4) 研修の評価方法 研修前後のレポート 等

(5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり

- ・ 外部専門機関等からの講師による指導のもと、英語の指導法や評価法について、指導・助言を受ける。

2 研修名 学習指導法・評価研究委員会による英語授業力向上のための研修

(1) 研修対象者

市内小学校教員・中学校英語担当者

(2) 研修目的・内容

- ・ 学習指導法・評価研究委員による指導法研修を行う。(夏季)

(3) 受講予定者数 小学校教員対象講座40名、中学校教員対象講座40名

(4) 研修の評価方法 研修前後のレポート 等

(5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり

- ・ 学習指導法評価研究委員による指導のもと、研究協議会を行い、教員の英語使用状況、児童生徒の英語力の評価・分析等の観点から、指導法等を追究する。

3 研修名 研修協力校における研究授業・研究協議(小学校・中学校)

(1) 研修対象者

市内小学校教員・中学校英語担当者

(2) 研修目的・内容

- ・ 外部専門機関や大学教授等を講師として迎え、授業法や評価について学習する機会を設ける。
 - ・ 外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築するよう検討する。
- (3) 受講予定者数 40名(のべ)
- (4) 研修の評価方法 研修前後のレポート、児童の様子、授業記録等
- (5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり
- ・ 市内研修協力校において授業研究を公開する。
 - ・ 外部専門機関等からの講師による指導のもと、研修協力校を中心に、授業研究後の研究協議を行い、指導・助言を受ける。
- 4 研修名 高等学校研究授業参観・研究協議(中高連携において)
- (1) 研修対象者
市内小学校教員・中学校英語担当者
- (2) 研修目的・内容
- ・ 外部専門機関として「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」である一宮西高等学校において、その先進的な取組を参観する。
- (3) 受講予定者数 20名
- (4) 研修の評価方法 研修前後のレポート、生徒の様子、授業記録等
- (5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり
- ・ 小中高の連携を図るために授業研究後の研究協議を行う。
- 5 研修名 英語指導力向上検定
- (1) 研修対象者
市内小学校教員・中学校英語担当者
- (2) 研修目的・内容
- ・ 岐阜大学教授による講演会や授業力向上の研修会を実施したことの成果測定の実施の機会とする。
- (3) 受講予定者数 20名
- (4) 研修の評価方法 TOEICテスト
- (5) 外部専門機関及び研修協力校との関わり
- ・ 知識・教養としての英語ではなく、日常生活における英語によるコミュニケーション能力を幅広く設定できる。
- ◆県内全域の小・中学校の英語力指導力向上に係る研修等
- 1 英語教育推進リーダーによる指導力向上研修
- (1) 研修対象者
中学校英語担当教員
- (2) 研修目的・内容
中央での研修成果を普及・還元し、県内の中学校英語担当教員の指導力を向上させることを目的として、中央での研修を受けた英語教育推進リーダーを講師として、3日間の研修を実施する。令和元年度までの受講者は1,154名。令和2年度新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止したため、令和3年度までに英語担当教員全員が受講を完了する予定である。
- (3) 受講予定者数
40名
- (4) 研修の評価方法
研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。
- 2 愛知県小中学校教育課程研究集会
- (1) 研修対象者
小学校教員及び中学校英語担当教員

(2) 研修目的・内容

新学習指導要領の趣旨を見据えた実践事例を基に、指導方法や学習評価等、実施に伴う指導上の諸問題について小・中学校合同で研究協議を行うことにより、新学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善の推進を図る。

(3) 受講予定者数

35名

(4) 研修の評価方法

研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

3 小学校外国語講座

(1) 研修対象者

小学校教員

(2) 研修目的・内容

大学等の外部専門機関及び英語教育推進リーダー等を講師に招き、コミュニケーション能力を育む授業づくり及び小学校外国語における教材の活用や指導方法について、講義及び研究協議を通して学び、指導力の向上を図る。

(3) 受講予定者数

60名

(4) 研修の評価方法

研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

4 中学校外国語科講座

(1) 研修対象者

中学校英語担当教員

(2) 研修目的・内容

大学等の外部専門機関及び英語教育推進リーダー等を講師に招き、コミュニケーション能力を育む授業づくり及び小学校外国語における教材の活用や指導方法について、講義及び研究協議を通して学び、指導力の向上を図る。

(3) 受講予定者数

110名

(4) 研修の評価方法

研修後に実施するアンケートの結果を分析して評価する。

◆小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合について

1 年次目標の設定について

※目標管理書を参照

2 来年度の取組、計画について

- (1) 令和3年度から変更する教員採用選考試験を実施した後、受験者の状況・加点項目等について分析・検討し、英語準1級などの英語力を有する小学校新規採用者を増加させるための手立て・方策を探る。

令和3年8月～10月

受験者の状況、加点項目等について分析・検討

令和3年10月 教員採用選考試験検討会議にて検討

- (2) 中学校英語免許を保有する小学校新規採用者を増加させるために、令和3年度から新しくはなる教員採用選考試験を実施した後、受験者の状況・加点項目等について分析・検討する。

令和3年8月～10月

受験者の状況、加点項目等について分析・検討

